

さわがせ

号数 第 3 2 7 号
発行日 令和 4 年 3 月 1 日
発行所 金光教 韮 教会
〒 550-0011
大阪市西区阿波座 2-2-10
TEL&FAX 06(6541) 6313
mail : kagiyama2001@ybb.ne.jp



今年のもちつき大会は、教会長家族のみでの開催となりました（1月30日）

財が身につく徳をいただかねば

教会長 鍵山 公 生

コロナウイルス感染症はなかなか収まらず、高齢者の方にはご心配のことをございましょう。早く終息しますようにと祈るばかりですが、病は気からと言われるように、心配を先に立て、閉じこもってばかりしていたのではなお病が襲ってきます。なにくそこんなことに負けてなるものかと心を強く持たせていただいで、より一層一心に神様に向かい、この難関を切り抜けて参りたいと思います。



土地がほしい

教会の東隣の土地が売却され整地されました。不動産業者に売却された様子で、そこにどんなビルが建つのかと想像していましたら、しばらくして周旋業者からその土地を買わないかとの電話がありました。昔、隣の土地が売りに出された時はできるだけ買った方がいいということを知ったことがあります。また隣に高層のワンルームマンションができてもうっとうしく、その上環境も悪化しますので、

買うことができればそれに越したことはありません。とはいっても買う費用などありませんから、値段も聞かず即座に断ってしまいました。

2代教会長和田こゆみ先生はその昔、隣の土地を買ってそこにお広前を建てて、以前の広前を老人ホームにしたいと大きな構想をしておられましたが、土地というものはいつの時代でも高額で、なかなか買うことのできないものです。隣地は70坪ぐらいあり、もし買うならば2億円前後するのではないかと思います。お金を即座に得るには宝くじでも当たるのを待つぐらいですが、それはどうい望めません。

現在のお広前の建築時に3千万円の宝くじが売り出され、初めて20枚買いました。そのときはもし当選すればと金の使い道の「捕らぬ狸の皮算用」をしておりました。

その時教祖様がご幼少時に、ぼうびきという賭け事をされたことがあったのを思い出しました。友達から勧められた教祖様はお金が無いので断られましたが、貸してやるからといって無理矢理させられ、結局負けが重なり、養父に事の次第を告げたとき大変叱られ、2度と賭け事はしないと誓われたのでした。

宝くじは賭博とは種類の違う賭け事ではありますが、あまり良い金儲けの道ではないでしょう。お金が必要になるとあらぬことを考えてしまうもので、宝くじを買ったとき、もし高額が当たっても当たらなくても、2度とくじには手を出さないでおこうと心に決めました。結局10枚に1枚分だけの費用が戻ってくるシステムで、ほとんどの人が当たらないということを経験しました。

信徒会
新年会開催
1月9日

初月例祭後、信徒会総会が行われ、信徒会長のあいさつの後、令和3年の決算報告がありました。総会閉会后、お広前において、新年会が開催され、鍵山唯志さんのピアノ演奏、青年信奉者による、ゲーム大会が行われました。



↑けん玉ゲーム



↑ペットボトル立てゲームを、楽しみました。

財布を落とす

先日私の兄が参拝しお賽銭をしようとポケットに手を入れた時、財布を落とした事に気づきました。そこには自動車の免許証や現金、そしてカード類が数枚入っていたのです。急いで警察に届け出、カードの使用停止手続きをしました。

外国から日本に来た人がパスポートや財布を落とし、あきらめていたところ正直な人に拾われ、無事落とし主に届けられたというニュースを聞くことがあり、日本人の心の素晴らしさに感動したものです。そのような人に拾っていただければと親神様にご祈念しました。

兄は近所のお店などの協力を得て、アルミ缶や段ボールなどを集めて教会へ持参するといったボランティアの協力者です。そのように人助けをしているのにこんなことになってと心を病んでいました。

明るる日の午後警察から連絡があり、無事に手元に戻りました。やれありがたしと喜んだものの、その中身の現金は抜かれていました。しかし免許証やカード類は無傷であったそうです。その財布にいつもは数万円の札を入れていたのですが、その日は万札は入れておらず、またその日の午前中に5千円の品物を買ったため、財布に入っていたのは数千円のみで、被害は最小限に終わりました。本当に不幸中の幸いで、大難は小難におまつりかえしていただいたと神様にお礼申し上げたのでした。

財布を拾う

財布のことで重なる話ですが、その出来事の数日後、いつものように朝の境内や道路掃除をしていたところ、近くの交差点の陸橋下に分厚い財布が落ちているのを見つけました。チャックを開くと十数万円と自動車免許証、その他数枚のカードなどがぎっしりと入っていました。つい6日前に兄が財布を落として困ったのですから、即刻中身に手をつけることなく警察に届け出、どうぞ無事に持ち主に戻りますようにと祈念させていただいたのです。もし他の人のように中の現金だけ自分のものにして、儲かったなどと喜んでいては、そのうちとてつもない大きな損害を被ることになると神様からのお知らせといただきました。

財布が動く

もう一つその日の新聞に「ひととき」という記事が偶然掲載されていました。

80歳の京都の女性が外出先から帰って財布の紛失に気づき、その中にエアタグという小型の機器で、スマートフォンで現在地を教えてくれるという便利なものを入れていたのです。息子がもしもに備えて持たせてくれていました。祈るような気持ちで画面を見たら、表示された地図の中のいつも通る道ではないところを動いているのです。そしてある公園の片すみで止まったのです。これは早く迎えに行かなくてはと車を走らせ公園に乗り付けると、そこに財布があったのです。紛失に気づいて1時間ほどの出来事でした。中の現金は案の定すべて無くなっていたというのです。しかし無事財布が戻ってくれたことに感謝し、そのと

き考えたことは、もし拾った人が自宅まで持ち帰ってれば、その家のドアをたたいたかどうかと。

ついお金があればなあなどと思っているものですから、そのような出来事とおして、人の金を当てにしたり、一攫千金を求めてはよくないと気づかせて頂きました。

金光様は「一年で金持ちになるような心になるな。先は長い。少しずつためたのは、尽きることはないが、一時に殖やしたのはなくなりやすい。信心をする者は、我欲なことをしてはならない。濡れ手で粟のつかみ取りの気をもつな。人より一年遅れて金持ちになる気でおれ」と仰せくださっています。

日常に信心の徳を積んでおかげをいただいでいないと、財を持ち続けることができず、一度は手に入ってもすぐに手元から離れてしまうものです。

(2月24日月例霊祭時の教会長教話より)

父の祈りを受け継いで家族の幸せ祈る

教会が好き、ご用が好き

渡辺秀孝氏

鞆教会信徒総代の渡辺秀孝さんは金光新聞の取材を受け、「私のたすかり」のページに掲載されましたので、ここに転載してご紹介いたします。(2月9日付)

(取材、藤坂金生)

教会の区別なくご用

渡辺さんは、大阪の町を自転車で走っていて、金光教の紋章である八つ波の紋が目に入ると、その教会にお参りする。たとえそこが初参拝の教会であっても、「先生、外の御紋の色が薄くなっているの、やり替えますね!」。突然の申し出に、相手に驚く間も与えず、「明日また来ます」と言って去っていく。その言葉通り、次の日サッと現れて、綺麗に修復していく。「なんでそんなことができるんですか?」と驚いた私に、「だって気になるやん! 金光教の教会のご紋がぼやけていたら格好悪いやん。まずいやろ? まあ、俺はそんなんがすぐ言えるんや。これは俺のええとこやな」。屈託のない笑顔で答える渡辺さん。

「うちの母親が、サッとやる人やったんよ。急に雨が降ってきて、お向かいが留守にしてたら、家に上がって洗濯物を取り入れる。そこらが似てるんやな。サッとやると、相手も断る理由をなくすやろ(笑い)。それに、よその家に行って、『ペンキ塗りましょか?』とは言えんわな。でも教会やったら言えるやん。まあ、

身内意識やな」。

渡辺さんには「自分がお参りしている教会」「よその教会」という区別がなく、どこの教会も同じ「神様の広前」なのだと感じた。何より、「教会が好きやねん！」とサラッと放ったこの一言に、渡辺さんが一生懸命ご用をする理由が込められている。

父が祈り家族幸せに

小さい頃から、教会の少年少女会（青少年の心身を育てる活動）に参加したり、勉強を教えてもらったりと、いつも教会と共にあった。当時から抱いていた「教会が好き」という思いは、歳を重ねた今も全く変わっていない。

そして、その土台には、お父さんの存在がある。83歳で亡くなった渡辺さんのお父さんは、生まれつき体が弱く、医師から20歳まで生きられないと言われていた。しかし、おかげをいただいて、結婚もでき、13人もの家族に恵まれたといつも喜んでいて。そんなお父さんには、「自分が教会に行き祈ることで、家族が幸せになる」。この絶対的な信念があった。

晩年のお父さんは、毎日、午前5時半の朝のご祈念から、午後5時までの時間を教会で過ごした。その姿を見ていた渡辺さんは、父親がいつも祈ってくれてたから、今の渡辺家がある。毎日教会で家族のことをお願いしてくれてたから、みんな幸せになっている。ほな、父親が亡くなったら俺がせな、後のもんが幸せになれへんやんか」。いつもは冗談めいた口調の渡辺さんの言葉に、少し力がこもる。

それにお参りしたら教会長が『藤井寺〇〇に住まいます渡辺秀孝。川崎〇〇に住まいます渡辺孝志（長男）・・・』と言って、毎日朝昼晩の3回も、俺の家族のことを祈ってくれてるねん。人さまがそれだけしてくれてるのに、自分たちが知らん顔してるっておかしいやろ？ むしろ俺がもっと頑張らなあかんやろ」。

お参りしたら、必ずおかげがある。教会が好き、ご用が好き、祈られているから自分も祈らせてもらおう。渡辺さんは至ってシンプルだ。

「信心は伝わるッ！」

「祈り」について、渡辺さんはこんな話もしてくれた。

25年前、当時20歳だった娘さんが、スキーに出かけた道中で交通事故に遭った。車の窓ガラスを突き破り、車外へ投げ出され、頭を強打したものの、娘さんに外傷はなかった。しかし意識不明の重体だった娘さんは、脳内出血がひどく、手術を受けることができなかった。事故の知らせを受けた渡辺さんは、すぐに教会に飛んでいき、神様に祈った。でも、「不思議と心配はなかった」と振り返る。

理由を尋ねると、「心配ごとは神にあずけて、今できる事をする」との文字が印字された、自分の名刺を見せてくれた。「心配しても仕方ないやん。助かるか、助からないかは神任せ。神様が決めることやろ？ 祈って待つしかなかったんや。うだうだ考えんでええねん。シンプルやな」そう話す渡辺さんに、「でも、なかなかそれができないんですよ。渡辺さんは何でできるんですか？」と質問を重ねると、「神様への絶対信頼やろうね」。隣で取材を見守っていた教会長先生が、即座にそう答えてくれた。改めて、渡辺さんの神様を信じる心の深さを感じさせられた。

娘さんはその後、治療ができないままだったにもかかわらず、脳内出血が消え、3ヶ月で退院することができた。現在は後遺症もなく、結婚して元気に過ごしている。

最後に、「子供さんらにも信心の継承してもらいたいですか？」と訪ねてみた。「そら、信心してくれたらうれしいよ。でも、玉野さん（信徒の大先輩）が言っていた。『信心は伝わるッ！』って。それは自分の問題やってことやな。子供のせいにするなってことやな」渡辺さんの信心は絶対に伝わりと感じた。今の渡辺さんを作っているのは、お父さんの毎日の参拝と祈りの姿、お母さんの人を思う親切心。両親の信心が伝わって、今の渡辺秀孝となっている。それは必ず次の世代へ伝わっていくと確信する。



毎月書道教室に通い、書道の先生とみ教えの内容を検討しながら書道の練習をされています。書いたものを毎月教会の掲示板上に貼って、道行く人に向けて布教しておられます。



月例霊祭日に、祥月命日の御霊様もお呼び出しして
ご慰霊させていただきます。
ご都合お繰り合わせをいたただかれ、ご参拝下さい。
(3月13日・4月24日ともに午前10時半より)

京都にお住いの木村喜代美さんは、金光新聞の「俳壇」の欄へ投稿しておられます。掲載されたものをご紹介します。

「俳壇」

平 春陽子 (選)

字余りの生き方もあり星月夜

(令和3年10月10日号)

(評) 豊かな感性から、人の生き方や暮らしぶりを星月夜の季題にかたらせた妙

女手の清しき文や桐一葉

(令和3年12月12日号)

大根焚く湯気の間に関顔のあり

(令和4年1月26日号)

金光大阪高校が、

センバツ高等学校野球大会に出場決定

金光大阪高校野球部が、昨年の秋季大阪府予選で準優勝、秋季近畿地区大会では、ベスト4の成績で春のセンバツ高等学校野球大会に出場することが決定しました。3月13日から30日までの間、甲子園で熱戦が繰り広げられます。

ぜひご声援をお送りくださいますようお願いいたします。教会でものぼりを掲げて応援しています。



令和4年3月

- 1日(火) 月例祭執行 午後2時
- 5日(土) ご本部月参拝 午前6時教会出発
- 13日(日) 月例祭並びに月例霊祭執行
午前10時30分
- 18日(金) 信徒共励会 午前10時
- 21日(祝) 春季霊祭執行 午後2時
- 27日(日) 春の合同墓前祭 午前10時
瓜破霊園にて



3月21日(祝) 午後2時より
春季霊祭 執行

4月24日の月例霊祭は、時間を変更していますので、ご注意ください



4月

- 1日(金) 月例祭執行 午後2時
- 3日(日) ご本部 天地金乃神大祭参拝
午前6時教会出発
- 10日(日) 月例祭並びに勸学祭執行
午前10時30分
- 15日(金) 信徒共励会 午前10時
- 17日(日) うりわり墓参 午前7時
- 24日(日) 月例霊祭執行 午前10時30分

5月

- 1日(日) 月例祭執行 午後2時
- 3日(祝) 大祭準備大掃除 午前10時
- 4日(祝) うりわり墓参 午前7時

5月8日(日) 午前10時30分より
天地金乃神大祭奉行
祭典後説教：大阪府連盟布教部講師

さわかぜは、韃教会ホームページからもお読みいただけます。

金光教うつほ教会 **検索**

もちつき大会
節分豆まき
1月30日



↑ つきたてのおもちを熱い間に丸めます。

↑ 節分豆まき行事



↑ 「べったんこ」 楽しくおもちをつきました。 ↑

